（別紙）

水稲の出穂状況（８月５日現在概況速報）について

１　８月５日現在、県全体で７５％の水田で出穂したとみられる。
地帯別の出穂割合は、北上川上流６５％、北上川下流７８％、東部６０％、北部７９％である。

２　県全体の出穂始期（10%出穂）は７月３１日、出穂盛期は（50%出穂）は８月３日と推定される（始期、盛期ともに平年より４日早い）。

表１　水稲の地帯別出穂状況（8 月 5 日現在，各農業改良普及センター調べ）

農業地帯	8/5 現在 出穂割合(%)					出穂時期（月／日）						
						本年		平年			平年差（日）	
	本年	H25	H24	H23	H22	始期	盛期	始期	盛期	終期	始期	盛期
北上川上流	65	18	15	14	64	7/30	8/4	8/3	8/7	8/11	−4	−3
北上川下流	78	14	33	17	67	7/31	8/3	8/4	8/7	8/11	−4	−4
東　　部	60	14	35	6	59	8/2	8/4	8/5	8/8	8/12	−3	−4
北　　部	79	12	9	20	66	8/1	8/3	8/4	8/7	8/11	−3	−4
県　全　体	75	15	27	16	66	7/31	8/3	8/4	8/7	8/11	−4	−4

注）1，平年値は、平成 16 年～25 年（15 年除く）10 カ年の平均値.
　　2，出穂状況は、始期：10%終了、盛期：50%終了、終期：90%終了、を表している.

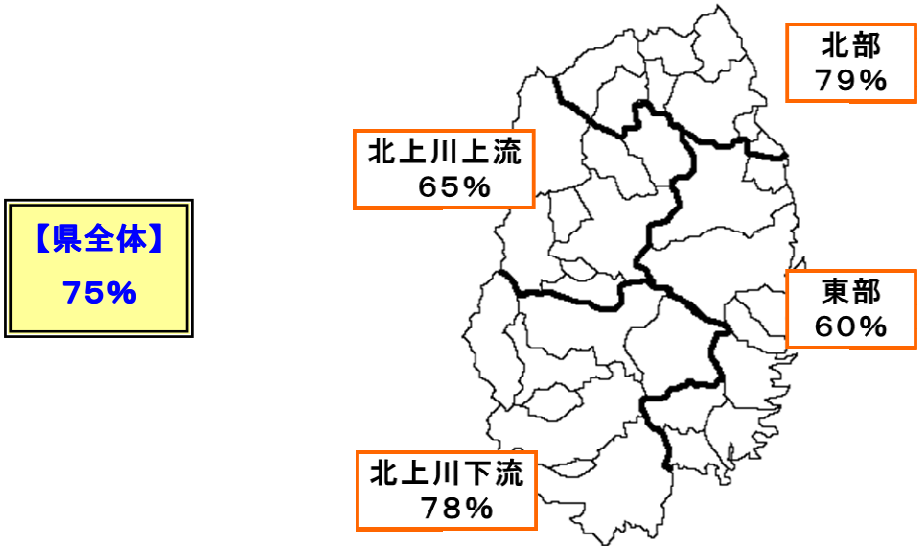

図１　水稲の地帯別出穂割合（8 月 5 日現在，各農業改良普及センター調べ）

３　栽培管理のポイント

（１）出穂・開花期間は最も水が必要な時期なので、田面が露出しないよう湛水管理（浅水で良い）とする。

（２）１ヶ月予報（７月３１日，仙台管区気象台発表）によると、東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、向こう１か月の平均気温は、高い確率５０％と予想されている。
気温が高い日が続く場合（概ね日中３０℃以上、夜間２３℃以上）、開花終了後は間断かんがいを基本とし、積極的な水の入れ替えにより地温の低下を図る。

（３）早期落水は収量や品質低下の原因となるので避ける（完全落水は出穂後３０～３５日後）。

（４）斑点米の原因となるカスミカメムシ類の発生量が多く、斑点米の多発が懸念されている。水稲の生育に合わせ、穂揃１週間後の薬剤防除を徹底すること。

（５）いもち病（穂いもち）は、葉いもちの発生状況と気象経過に注意し、基本防除を徹底するとともに、必要に応じて追加防除を実施すること。